

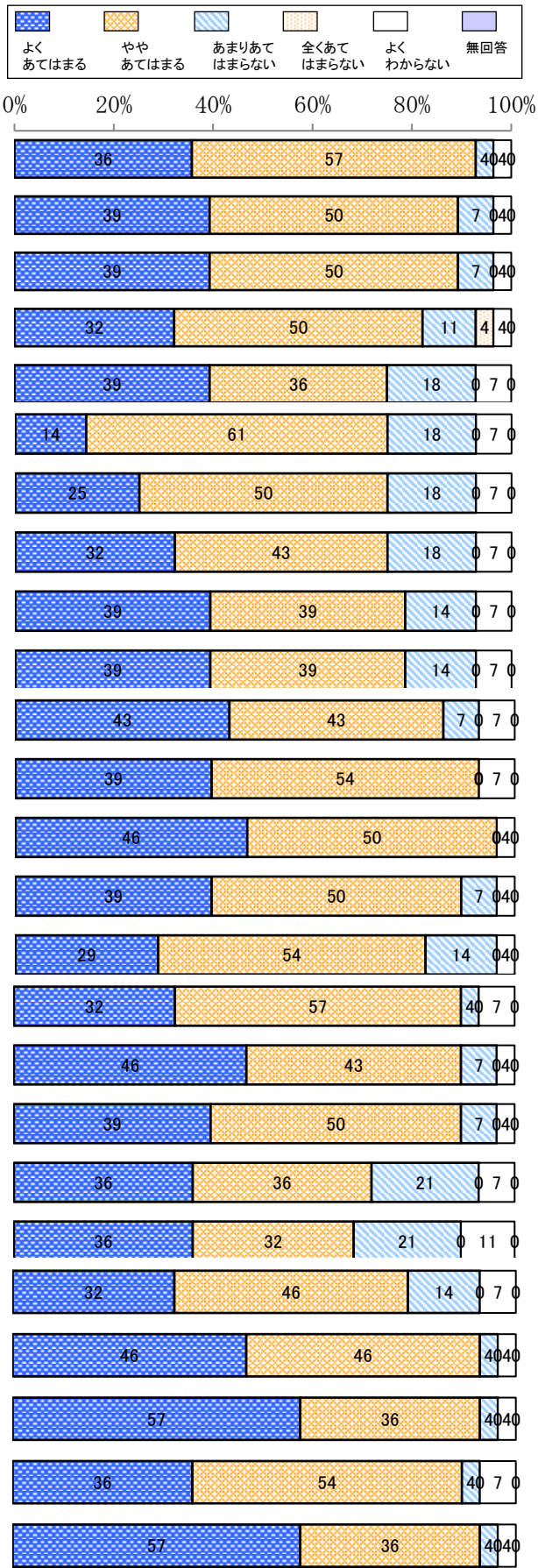
令和6年度『学校評価アンケートの結果』と『自己評価』

荒川区立原中学校

様式4

		アンケートの結果		上段：生徒 下段：保護者等 グラフ：教職員						
				A	B	C	D	よく分らない	無答	
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	33 14	53 69	11 8	0 1	3 8	0 0	
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	57 23	35 58	4 9	1 5	3 5	0 0	
	3	基本的生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的生活習慣がしっかりしている。	49 25	41 60	9 10	0 1	1 4	0 0	
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	28 19	51 58	12 12	3 4	6 6	0 0	
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	52 29	41 58	4 8	1 1	2 3	0 0	
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	29 9	52 45	13 12	3 3	3 31	0 0	
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	34 13	45 52	13 10	1 3	7 23	0 0	
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	33 20	35 60	26 5	3 1	3 13	0 0	
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	54 32	39 55	3 5	3 1	1 8	0 0	
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	34 13	48 46	15 19	1 3	1 18	0 0	
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	46 16	45 52	4 8	0 3	5 21	0 0	
	12	道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐくむ教育を行っている。	52 18	42 55	3 5	1 2	2 19	0 0	
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	26 18	37 44	20 12	9 3	7 23	0 0	
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	68 45	24 44	4 6	1 3	3 2	0 0	
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	41 42	48 46	5 5	1 4	5 2	0 0	
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	29 24	36 58	7 9	2 1	26 8	0 0	
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	32 25	45 58	6 7	3 3	13 8	0 0	
	18	学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	52 29	35 58	8 6	0 2	5 5	0 0	
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	29 23	23 47	33 3	11 0	3 28	0 0	
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	35 16	42 40	7 5	2 3	15 35	0 0	
各学校の特色ある教育	21	原中学びスタイルの推進	学校は、原中生の目指す姿の実現に向けて、生徒が「わかる楽しさ」・「できる楽しさ」・「学ぶ楽しさ」を実感できる授業を推進している。	24 14	46 39	21 30	4 6	5 10	0 0	
	22	キャリア教育の充実	学校は、みらいラボや勤労留学、職業講話、マナー講座などを通して、望ましい勤労観や職業観を育てるための指導を充実させている。	35 19	48 41	8 8	1 1	7 30	0 0	
	23	社会貢献活動への参加	生徒は、地域清掃や地域イベントなどのボランティア活動に参加し、地域や社会のための活動に取り組んでいる。	30 24	35 53	23 6	8 4	3 13	0 0	
	24	充実した学校生活	生徒は、委員会活動や部活動、学年・学級活動に主体的に参加し、自分らしさを発揮して生活を送っている。	33 30	36 50	23 8	4 4	3 8	0 0	
	25	食育の推進	学校は、生徒の健康な食生活と食習慣を確立するために、学校全体で食育と給食指導に努めている。	55 31	32 49	9 8	2 1	3 10	0 0	

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

生徒総会で決議した、30周年記念原中生徒会目標「さはらそう（尊重・思考・自立・継続・協力）」の定着に期待する。

90%以上の生徒・保護者が明るく楽しい学校生活を過ごしていると感じている。不登校生徒対応の組織の改善が課題である。

三者とも服装や通学態度、挨拶の習慣、きまりを守るなどの基本的生活習慣がしっかり身に付いていると感じている。

おおむね三者とも満足している。「褒めるときは大いに褒め、叱るときは本気で叱る」姿勢で、生徒理解を深めたい。

ヘルメットの着用や原保育園との合同の避難訓練、避難所開設講座を実施し、三者とも防災教育を高く評価している。

15%（昨年度18%）の生徒が授業が分からない・つまらないと感じている。授業力向上に努め、全ての生徒が分かる授業を目指す。

14%（昨年度15%）の生徒が不十分と感じている。全ての生徒が満足できる、一人一人の理解の程度に応じた指導の充実を図る。

30%（昨年度40%）の生徒は授業以外に勉強をしていない。タブレットPCの活用など、家庭学習の習慣化を促す工夫をする。

三者ともICT機器の活用に満足している。さらにeライブラリやGoogle Classroomの活用を推進し、生徒のニーズに応える。

学校図書館を活用した授業や読書週間の取組が、保護者には周知されていないようである。保護者や地域に広く発信していく。

教職員と生徒は人権教育が充実していると感じている。講演会や体験的授業を実践し、保護者や地域の参加を促していく。

教職員と生徒は道徳教育が充実していると感じている。「考え、議論する道徳」の授業の様子を保護者や地域に広く発信していく。

教職員と生徒・保護者の意識の差が大きい。生徒が気軽に相談できる環境づくりと、一人一人の居場所づくりが必要である。

三者とも概ね満足している。さらに達成感と充実感のある体験的な教育活動を推進して、望ましい人間関係づくりを推進する。

三者とも概ね満足している。JRCの行動目標である「気づき・考え・実行する」自治的・自発的な活動に発展させていく。

1／4の生徒が「よく分からない」と答えている。朝礼や学活等で学校便りや学年便りを活用する機会を設定する必要がある。

三者とも概ね満足している。日頃からの声掛けを大事にして、生徒が自分の思いや相談を安心して話せる環境づくりに心掛ける。

土曜授業日に部活動体験や展示の部等を設定し、保護者の参加が増加した。今後も保護者や地域が参加しやすい工夫をしたい。

地域の行事に参加している生徒は約半数である。地域での生徒の活躍を広く発信し、参加者を増やす工夫をする必要がある。

35%の保護者が「よくわからない」と答えている。保護者や地域が意見や要望等を言いやすい体制や雰囲気づくりが必要である。

全教員が「原中学びスタイル」を意識した授業を実践している。継続して、生徒の学習意欲の向上と基礎学力の定着を目指す。

みらいラボと勤労留学は3学期に実施する。キャリア教育を通して夢のある生徒を育てるとともに、保護者への周知に努める。

65%の生徒がボランティアに意欲的に参加している。未経験の生徒がボランティアに参加するきっかけ作りを仕掛けていく。

28%（昨年度16%）の生徒が自分らしさを発揮できていないと感じている。一人一人が活躍できる学級・学校づくりを目指す。

三者とも高く評価している。栄養士の創意工夫により、給食の残量はほとんど無く、生徒の食への関心の高さがうかがえる。